

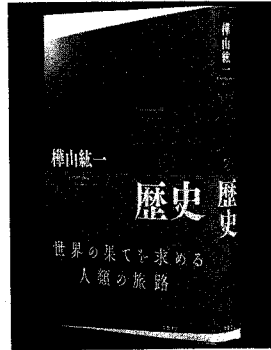
## 歴史の歴史

評・月本 昭男 (旧約聖書学者  
上智大特任教授)

時間に追い立てられるようにして日々を過ごす私たちも、かつて季節の循環に寄り添った人間の生活の営みがあったことを知っている。知っているにしても、日常の生活の大半は分

## 時間観の変化する情景

観や自然観においてもそうである。著者は中世から近世にいたるヨーロッパの自然観・身体観の変化を跡づけるなかで、なおそこに「民衆や生活の心性にふかくむすびついた」自然観が根強く生き続けている事実を指摘する。そうした記述に触れた読者は、もはや、人間を自然の支配者とみるキリスト教的 worldview と両者の調和融合を目指す日本の伝統思想といった単純な対比が意味をなさないとを知るだろう。



千倉書房  
3000円

刻みの時間に預けている。ミレーの「晩鐘」に聞き取る静謐な時の流れを過去に追いやり、チャップリンが「モダン・タイムス」に映し出してみせたような、管理された時間を生きている。

本書によれば、そうした時間観念の変化は「教会の時間」から「市場の時間」へとという形で、まずは中世から近世にいたるヨーロッパで起こった。社会の近代化は私たちの時間観念を大きく変質させたのである。

それでもなお私たちはそこに「閑暇(ヴァカンス)と祝祭」という管理されない時間を介在させようとする。

こゝとは時間観に限られない。人間

本書は主として中世から近世にかけてヨーロッパ世界で起こった様々な変化を見きわめながら、現代に生きる私たちがあたりまえと考えている事象や観念が歴史に立ちあらわれてきた情景を読者の前に鮮やかに描き出してみせる。そこには、日本を代表する歴史家の円熟味がいかになく発揮されている。円熟味とは、この場合、個々の歴史事象を観察する複眼的視点であり、多様な評価への著者の目配りである。

このような本書をひもどく読者は眼の前にひろがる多彩な歴史世界に触れることになるだろう。そういえば、私たちの言語は、「前」という言葉を使って過去を表現する。

◇かはやま・こういち 1941年生まれ。印刷博物館館長、東京大学名誉教授。専門は西洋中世史、西洋文化史。